

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年2月14日
【四半期会計期間】	第18期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社あみやき亭
【英訳名】	AMIYAKI TEI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 啓介
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第3四半期連結 累計期間	第18期 第3四半期連結 累計期間	第17期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(百万円)	16,127	17,307	21,660
経常利益(百万円)	1,076	1,503	1,602
四半期(当期)純利益(百万円)	464	820	710
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	464	819	711
純資産額(百万円)	11,624	12,465	11,871
総資産額(百万円)	14,083	15,414	14,662
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	6,777.61	11,974.83	10,378.06
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	82.5	80.9	81.0

回次	第17期 第3四半期連結 会計期間	第18期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2,687.85	3,065.41

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景として、一部に緩やかな景気回復の動きが見られたものの、長期化する円高の影響や欧州債務危機に加え中国をはじめとする新興国の成長鈍化などにより依然として先行きに対する不透明感は払拭できない状況となっております。

当業界におきましても、先行き不透明感から雇用情勢・所得環境が厳しさを増す中で、消費者の生活防衛意識による節約志向や業界内の競争激化など取巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、経営理念であります「お客様一人一人に喜んでいただく」ことを実現するために、当社の強みである食肉の知識と技術を駆使し、国産牛肉の品質向上を通じてお客様にとって「安心・安全で美味しくて安い」商品の提供を徹底するとともに多能工を推進し店舗力の底上げを行ってまいりました。

店舗数につきましては、あみやき亭5店舗（松阪店、浦和美園店、与野本町店、中津川店、越谷店）、美濃路1店舗（春日井篠木店）を新規出店いたしました。美濃路1店舗（甚目寺店）を退店したため、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は190店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、17,307百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益1,460百万円（前年同期比47.2%増）、経常利益1,503百万円（前年同期比39.6%増）、四半期純利益820百万円（前年同期比76.7%増）となりました。

また、株式会社あみやき亭単体の当第3四半期累計期間の業績は、売上高14,777百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益1,490百万円（前年同期比26.4%増）、経常利益1,561百万円（前年同期比24.9%増）、四半期純利益881百万円（前年同期比32.0%増）となりました。

#### < 焼肉事業 >

焼肉事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、5店舗新規出店した結果、123店舗となりました。内訳は、あみやき亭106店舗、かろび家5店舗、スエヒロ館12店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって価値感・満足感のある商品」の提供に努め、接客・サービスレベル向上に向けた従業員教育を行うなどの既存店強化に努めてまいりました。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である強みを活かして「チェーン店価格」で和牛中心の商品を提供しております。

以上の結果、焼肉事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、13,535百万円（前年同期比8.8%増）となりました。

#### < 焼鳥事業 >

焼鳥事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、1店舗（春日井篠木店）新規出店し、1店舗（甚目寺店）を退店したため、58店舗であります。

焼鳥事業は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」58店舗であります。

焼鳥事業におきまして、焼鳥技術向上による「美味しい・安い」焼鳥の提供に努めるとともにサービス業としての基本の徹底を図るなどの内部取組を優先し、既存店の立て直しを行っております。

以上の結果、焼鳥事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、3,017百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

#### < その他の事業 >

その他の事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、9店舗であります。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストランの「スエヒロ館」6店舗、居酒屋「楽市」3店舗であります。

レストランの「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした低価格の「100%国産ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの専門店として、引続き品質の向上に努めてまいりました。

また、居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに商品の品質向上やお客さまの立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

以上の結果、その他の事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は754百万円（前年同期比15.0%増）となりました。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

該当事項はありません。

（4）財政状態の分析

（資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の資産の内、流動資産は、現金及び預金の増加等により7,145百万円となり、前連結会計年度末と比較して、650百万円増加しました。

固定資産は、建物の増加等により、8,268百万円となり、前連結会計年度末と比較して、100百万円増加しました。

以上の結果、資産の部は、15,414百万円となり、前連結会計年度末と比較して、751百万円の増加となりました。

（負債の部）

当第3四半期連結会計期間末の負債の内、流動負債は、設備未払金の増加等により2,556百万円となり、前連結会計年度末と比較して、125百万円増加しました。

固定負債は、資産除去債務の増加等により、392百万円となり、前連結会計年度末と比較して、31百万円増加しました。

以上の結果、負債の部は、2,948百万円となり、前連結会計年度末と比較して、157百万円の増加となりました。

（純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、利益剰余金の増加等により12,465百万円となり、前連結会計年度末と比較して、593百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、80.9%となり前連結会計年度末と比較して、0.1ポイント減少となりました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	144,000
計	144,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	68,488	68,488	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	68,488	68,488	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	68,488	-	2,473	-	2,426

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	-	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式68,488	68,488	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	68,488	-	-
総株主の議決権	-	68,488	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

辞任役員

役名	職名	氏名	辞任年月日
取締役	マーケティング本部長	福井 啓雄	平成24年12月1日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,757	6,335
預け金	177	380
売掛金	2	2
商品及び製品	43	50
原材料及び貯蔵品	224	85
繰延税金資産	94	48
その他	193	243
流動資産合計	6,494	7,145
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,786	4,848
構築物（純額）	393	380
機械及び装置（純額）	203	192
車両運搬具（純額）	3	2
工具、器具及び備品（純額）	187	175
土地	516	516
建設仮勘定	20	35
有形固定資産合計	6,111	6,151
無形固定資産		
ソフトウェア	5	2
その他	47	45
無形固定資産合計	52	48
投資その他の資産		
投資有価証券	10	10
長期貸付金	249	251
繰延税金資産	239	246
差入保証金	1,014	1,028
その他	490	532
投資その他の資産合計	2,004	2,069
固定資産合計	8,168	8,268
資産合計	14,662	15,414



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	859	853
未払金及び未払費用	848	1,152
未払法人税等	363	194
賞与引当金	103	41
役員賞与引当金	-	15
株主優待引当金	3	5
ポイント引当金	27	27
その他	226	266
流動負債合計	2,431	2,556
固定負債		
負ののれん	0	0
繰延税金負債	25	24
資産除去債務	245	263
その他	89	103
固定負債合計	360	392
負債合計	2,791	2,948
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	6,972	7,566
株主資本合計	11,873	12,467
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	2
その他の包括利益累計額合計	2	2
純資産合計	11,871	12,465
負債純資産合計	14,662	15,414

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	16,127	17,307
売上原価	6,161	6,670
売上総利益	9,965	10,637
販売費及び一般管理費	8,972	9,176
営業利益	992	1,460
営業外収益		
受取利息	11	12
受取配当金	0	0
協賛金収入	49	23
その他	22	6
営業外収益合計	83	42
営業外費用		
その他	0	-
営業外費用合計	0	-
経常利益	1,076	1,503
特別利益		
受取保険金	13	6
特別利益合計	13	6
特別損失		
固定資産除却損	49	63
減損損失	-	6
その他	0	1
特別損失合計	49	70
税金等調整前四半期純利益	1,039	1,439
法人税、住民税及び事業税	499	580
法人税等調整額	76	38
法人税等合計	575	619
少数株主損益調整前四半期純利益	464	820
四半期純利益	464	820

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	464	820
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	464	819
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	464	819

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第3四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	580百万円	569百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月15日 定時株主総会	普通株式	102	1,500	平成23年3月31日	平成23年6月16日	利益剰余金
平成23年10月3日 取締役会	普通株式	102	1,500	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月13日 定時株主総会	普通株式	102	1,500	平成24年3月31日	平成24年6月14日	利益剰余金
平成24年10月1日 取締役会	普通株式	123	1,800	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,435	3,036	15,471	656	16,127
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	12,435	3,036	15,471	656	16,127
セグメント利益又は損失( )	831	214	1,045	52	992

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,045
「その他」の区分の利益又は損失( )	51
全社費用(注)	1
四半期連結損益計算書の営業利益	992

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,535	3,017	16,552	754	17,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	13,535	3,017	16,552	754	17,307
セグメント利益又は損失( )	1,314	163	1,477	14	1,463

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,477
「その他」の区分の利益又は損失( )	14
全社費用(注)	2
四半期連結損益計算書の営業利益	1,460

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	6,777円61銭	11,974円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	464	820
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	464	820
普通株式の期中平均株式数(千株)	68	68

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

中間配当に関する事項

平成24年10月1日開催の取締役会において、当期中間配当につき、次のとおり決議しました。

中間配当による配当金の総額 123百万円

1株当たりの金額 1,800円00銭

支払請求の効力発生日および支払開始日 平成24年12月10日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 2月13日

株式会社あみやき亭  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 順 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 楠元 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あみやき亭の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あみやき亭及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。